

「(仮称)佐久都市計画道路1・4・1号南牧佐久線 環境影響評価方法書についての知事意見に基づく調査地点等の報告」に対する助言

[大気質]

- 1 (仮称)小海 IC 付近には社会福祉施設や診療所の他、多くの住居が存在していることから、工事の実施及び供用後の自動車の走行による影響を適切に予測及び評価するために、大気質の調査地点を追加すること。

[水質]

- 2 切土工等、工事施工ヤードの設置、工事中道路の設置及び水底の掘削による影響を予測及び評価の対象としていることから、計画路線に対して上流側を調査地点としている矢出原川、杣添川及び大月川について、下流側にも調査地点を追加すること。

[水象]

- 3 トンネル工事、切土工等の実施及び道路の存在による松原湖や地下水への影響を適切に予測及び評価するため、松原湖と計画路線との間や、計画路線に近接する平沢第一及び第二水源の周辺に調査地点を追加するよう検討すること。また、同様に計画路線に近接する上の平水源についても、必要に応じて調査地点を追加するよう検討すること。

[地形・地質]

- 4 地形・地質は、地下水など他の項目の予測における基礎的な情報となる環境要素であることから、準備書においては、地質断面図やボーリング柱状図といった、トンネル工事等による影響の予測及び評価の根拠となる図表を示すこと。

[植物]

- 5 ハンノキ、ヤチダモ、ハルニレ等を構成種とする湿生林は、この地域の特徴的な群落であることから、植物相の調査結果等も踏まえて、分布の把握に努めるとともに、事業による影響を適切に予測及び評価すること。
- 6 植生の調査に当たっては、対象事業実施区域が寒冷な地域であることを踏まえ、特に湿生植物の見落としがないよう、調査の適期と考えられる春から初夏を調査時期に加えるよう検討すること。また、調査時期の設定理由を準備書に記載すること。

[その他]

- 7 トンネル工事や切土工等に伴う建設発生土の発生量の見込みや、その処分の方針を準備書に記載すること。